

Kansai Economic Insight Monthly

2014/7/24

Vol.15 June/July

- ・APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。
- ・本レポートの内容は、公益社団法人関西経済連合会『関西経済レポート』と連携しています。
- ・レポート公開時期は毎月第二週金曜日を予定しています。
- ・執筆者は、稲田義久（甲南大学教授、APIR 研究統括）、岡野光洋・林万平・木下祐輔（各 APIR 研究員）です。
- ・本編内の中国景気モニターは、APIR 中国経済分析のプロジェクトによるものであり、関西経済分析と連動して定期的に発信します。
- ・本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
景気の現況	2
中国景気モニター	8
主要月次統計	11
Release Calendar	12

要旨

- ✓ 関西の5月鉱工業生産は前月比+0.2%と3カ月連続の上昇。消費増税後も関西の生産は増産が続いている。
- ✓ 6月関西の輸出額の伸びは小幅プラス。一方、輸入は駆け込み需要の反動減から一転プラスに転じた。結果、貿易収支は4カ月連続の赤字も、赤字幅は縮小。
- ✓ 関西の6月の景気ウォッチャー現状判断DIは前月比2カ月連続で改善。夏のボーナス支給もあり、駆け込み需要の反動減の影響が緩和。同月の消費者態度指数も3カ月連続で改善。
- ✓ 4月の現金給与総額は関西2府4県、関西コアのいずれも2カ月連続の前年比プラス。5月の全国の現金給与総額は3カ月連続のプラスだが、伸び率は前月比で幾分減速しており、今後の動向には注意が必要。
- ✓ 関西の5月大型小売店販売額は2カ月ぶりの前年比小幅プラス。駆け込み需要の反動減の影響が和らぎつつある。
- ✓ 関西の5月の新設住宅着工戸数は前年比3カ月ぶりの大幅減。駆け込み需要の反動減に加え、好調の貸家が下落に転じた。
- ✓ 関西の5月の有効求人倍率は1.02倍と前月から小幅上昇。製造業中心に2カ月連続の改善。一方、失業率は4.0%で前月から低下しており、雇用情勢は好調が続く。
- ✓ 6月関西の公共工事請負金額は前年比4カ月連続のプラス。伸び率は20%台が続いているが、季節調整値では3カ月ぶりの前月比マイナス。
- ✓ 関西の5月建設工事は前年比25カ月連続のプラスも、伸びは1桁が続いている。請負と出来高のギャップは依然解消されていない。
- ✓ 6月中国のPMI指数は改善しており、「小型の景気刺激策」の影響と考えられる。2014年4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比+7.5%となり、前期の同+7.4%と比べて幾分加速した。市場コンセンサスを上回る結果であった。

【関西経済のトレンド】

	2013年						2014年					
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
生産	↑	↑	↓	↑	↑	↑	↑	↑	↓	↑	↑	
貿易	↑	↑	↑	↑	↑	↓	↓	↑	↓	↑	↑	↑
センチメント	↑	↑	↑	↓	↑	↑	↓	↓	↓	↓	↑	↑
消費	↑	↓	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↓	↑	
住宅	↑	↓	↑	↑	↑	↑	↑	↓	↑	↑	↓	
雇用	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	
公共工事	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↓	↓	↓	↑	↑	↓
中国	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑

【鉱工業生産動向】

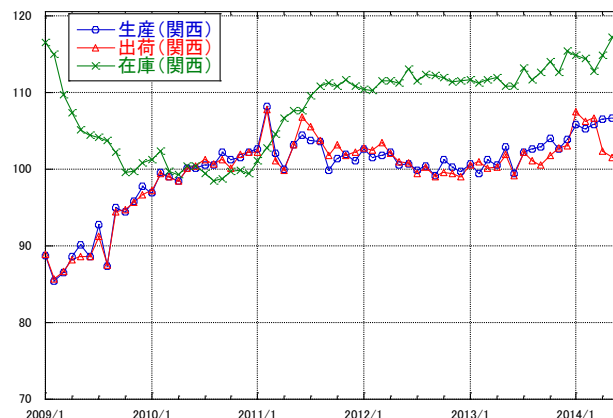
(1) 関西の生産動向

5月の鉱工業指数（速報値：季節調整済）を見ると、生産は106.7で前月比+0.2%と3カ月連続の上昇。出荷は101.5で同-0.9%と2カ月連続の下落。結果、在庫は117.2で同+2.0%、と2カ月連続の上昇。

業種別に生産指数をみると、化学（除 医薬品）（同+2.4%）、鉄鋼（同+2.8%）、情報通信機械（同+5.3%）等が上昇した。一方、はん用・生産用・業務用機械（同-4.1%）、金属製品（同-9.5%）、電子部品・デバイス（同-3.7%）等が下落した。

消費増税後、2カ月連続で生産は増加しており、4-5月平均は、1-3月期平均と比して+0.9%高い水準となっている。後述するように、全国の同期の生産指数は1-3月期平均比-2.8%となっており、関西とは対照的な動きとなっている。

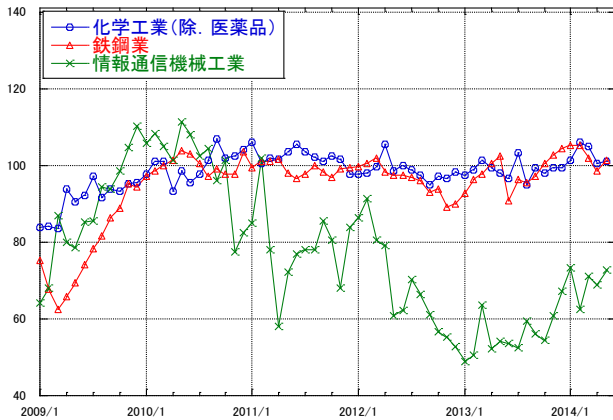
鉱工業指数の推移(関西：2014年5月まで、平成22年=100)



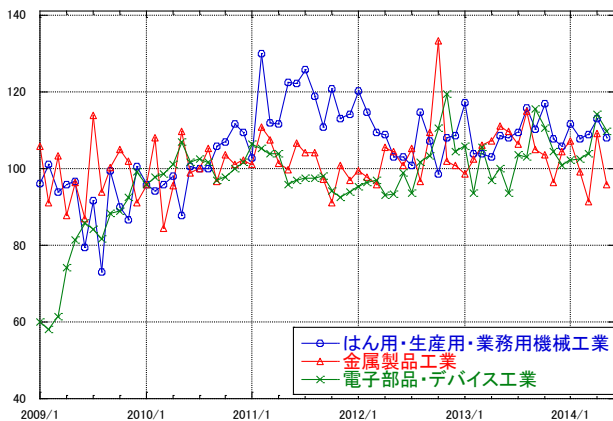
(注) 福井県を含む。

(出所) 「近畿経済の動向」、近畿経済産業局

業種別生産指数の推移(関西：2014年4月まで、平成22年=100)
(注) 福井県を含む。



(出所) 「近畿経済の動向」、近畿経済産業局
業種別生産指数の推移 (続き)



(2) 全国の生産動向

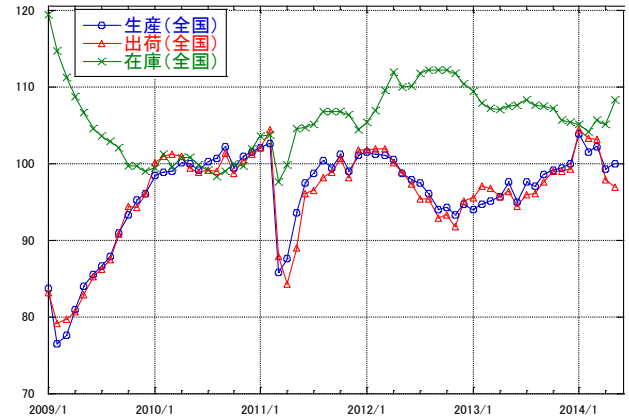
全国における5月の鉱工業生産指数(確報値、季節調整済)は100.0となり前月比+0.7%と2カ月ぶりの上昇。出荷は97.0で同-1.0%と4カ月連続の下落。在庫は108.4で同+3.0%と2カ月ぶりの上昇となった。4-5月平均の生産指数を1-3月平均と比較すれば、-2.8%低い水準となっている。

業種別にみると、輸送機械(同+1.9%)、食料品・たばこ(同+6.4%)、繊維(同+1.9%)等を中心に増産となった。一方、化学(同-2.9%)、情報通信機械(同-9.4%)、はん用・生産用・業務用機械(同-1.5%)等は減産。

4月の反動減(同-2.8%)から一転、増産となった。速報時における製造工業生産予測調査によれば、6月の減産幅(-0.7%)

は前月見通し(-2.0%)よりも縮小し、7月は増産(+1.5%)が見込まれている。今後の生産動向に上向きの兆しが見られる。

鉱工業指数の推移(全国：2014年5月まで、平成22年=100)



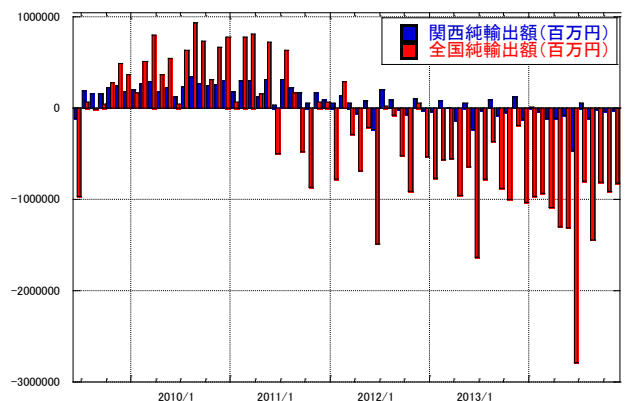
(出所) 「鉱工業指数」、経済産業省

【貿易動向】

(1) 純輸出

貿易概況(速報)によれば、6月関西の貿易収支は-217億円と4カ月連続の赤字となり、前年同月比1401億円悪化した。結果、4-6月期は-575億円と7期連続の赤字となり、赤字幅は前年同期比550億円拡大した。また、上半期の貿易収支は-5,826億円と4期連続の赤字(前年同期比+240.7%)となった。

純輸出(百万円)推移(2014年6月まで)



(出所) 「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」、大阪税関調査統計課

全国6月の貿易収支(速報値)は-8,222億円と24カ月連続の赤字となった(前年同月比+355.5%)。4-6月期は-2兆5,447億円となり、赤字幅は前年同期比24.2%拡大した。結果、上半期の貿易収支は-7兆5,984億円と過去最大の赤字となり、7期連続の赤字(前年同月比+57.9%)。

(2) 輸出

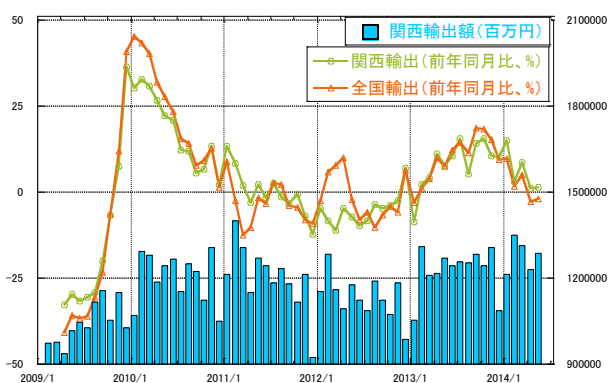
関西6月の輸出額(速報値)は1兆2,886億円、前年同月比+1.5%と16カ月連続の増加だが、4カ月連続で1桁の伸びとなっている。財別に見れば、輸出増加に主に貢献したのは、鉄鋼、原動機(単月過去最高)、有機化合物(単月過去最高)であった。

4-6月期は前年同期比+3.7%と5期連続の増加も、伸び率は3期連続で減速。結果、上半期の輸出額は、7兆4,845億円となり、前年同期比+6.2%と3期連続の増加となったが、伸び率は前期(+11.9%)から減少した。

全国6月の輸出額(速報値)は5兆9,396億円、前年同月比-2.0%と2カ月連続の減少。財別に見れば、半導体等電子部品、有機化合物、鉱物性燃料等の輸出が減少した。

4-6月期は前年同期比+0.1%と6期連続の増加も、伸び率は2期連続で減速した。結果、上半期の輸出額は、35兆498億円であり、前年同期比+3.2%と3期連続の増加も、伸び率は前期(+15.0%)から大幅に減速した。

輸出(右、百万円)・前年同月比(左、%)推移(2014年6月まで)



(出所)「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」、大阪税関調査統計課

(3) 輸入

関西6月の輸入額(速報値)は1兆3,103億円と単月過去最高額を更新した。前年同月比+13.8%と、先月の横ば

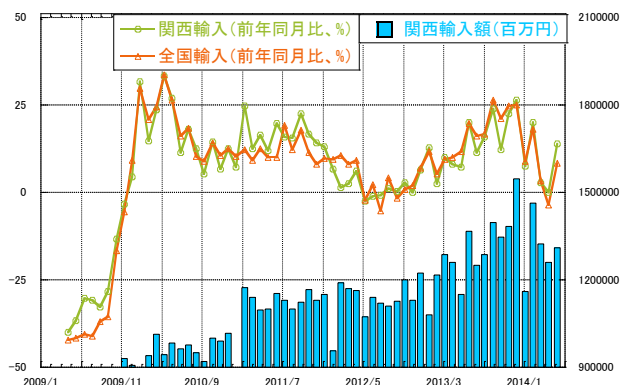
いから増加に転じた。財別に見れば、原油及び粗油、半導体等製造装置等を中心に大幅増加。いずれも単月過去最高である。駆け込み需要の反動減で4、5月は伸びが大幅減速となったが、6月は再び拡大してきたようである。

4-6月期で見れば、前年同期比+5.2%と7期連続の増加も伸び率は3期連続で減速。結果、上半期の輸入額は8兆671億円と過去最高額を更新。前年同期比+11.7%と9期連続の増加。伸び率は2期連続で2桁となっている。

全国6月の輸入額(速報値)は6兆7,619億円、前年同月比+8.4%と2カ月ぶりの増加。財別に見れば、原油、石油製品、液化天然ガス等の輸入が増加した。

4-6月期は前年同期比+2.6%と18期連続のプラスも、伸び率は2期連続で大きく減少。結果、上半期の輸入額は42兆6,482億円と過去最高額を更新。前年同期比+10.0%と9期連続のプラス。伸び率は2期連続で2桁となっている。

輸入(右、100万円)・前年同月比(左、%)推移(2014年6月まで)



(出所)「財務省貿易統計」、財務省

(4) 関西の地域別貿易

6月関西の貿易収支を地域別に見ると、対アジア貿易収支は+1,738億円と5カ月連続の黒字だが、黒字幅は3カ月ぶりに縮小した(前年同月比-21.1%)。うち、輸出は16カ月ぶりのマイナス(同-0.9%)。財別に見れば、鉱物性燃料(同-25.8%)、また半導体等製造装置(同-24.3%)等が減少した。輸入は2カ月ぶりの増加(同+6.0%)。財別に見ると、原油及び粗油(同+173.3%)、半導体等電子部品(同+25.6%)等が増加した。

対中貿易収支は-815億円と28カ月連続の赤字。赤字幅は3カ月ぶりに拡大(同+6.8%)。うち、輸出は3カ月連続のプラ

ス(同+3.8%)となった。鉱物性燃料(同+367.0%)、鉄鋼(同+34.7%)が増加した。輸入は2カ月ぶりのプラス(同+4.5%)。半導体等電子部品(同+48.3%)、鉄鋼(同+85.6%)が増加した。

対米貿易収支は+719億円と黒字基調が続いているが、黒字幅は2カ月連続で減少した(同-4.1%)。うち、輸出は2カ月ぶりの増加(同+3.6%)。鉄鋼(同+35.0%)、重電機器(同+47.9%)等が増加した。輸入は2カ月連続の増加(同+11.0%)。半導体等製造装置(同+169.3%)、石炭の輸入増が大きい。

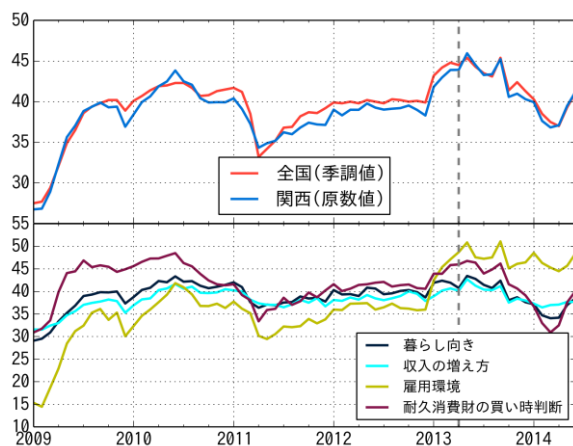
対EU貿易収支は-174億円と2カ月連続の赤字であり、赤字幅は拡大した(同-20.1%)。うち、輸出は13カ月連続のプラス(同+1.0%)であった。プラスチック(同+42.3%)、金属製品(同+51.6%)等が貢献した。輸入は3か月連続の減少(同-2.2%)。たばこ(同-35.6%)、木材(同-26.1%)等が減少した。

【消費者センチメント】

(1) 消費者態度指数の動向

関西の6月の消費者態度指数(原数値)は前月比+1.7ポイントの41.2と、3カ月連続で改善した。冷え込んでいた消費者心理は改善しつつある。

消費者態度指数(2014年6月まで)



(出所) 内閣府「消費動向調査」(平成26年7月10日公表)

同指数の構成項目をみると、4つの指標のうち3つが改善、1つが横ばいとなっている。「暮らし向き」は同+1.5ポイント、「耐久消費財の買い時判断」は同+2.5ポイントといずれも3カ月連続のプラス。「収入の増え方」は同+0.0ポイントと前月から横ばいとなった。「雇用環境」は同+2.7ポイントと2カ月連続のプラスで、14年1月以来の高水準。

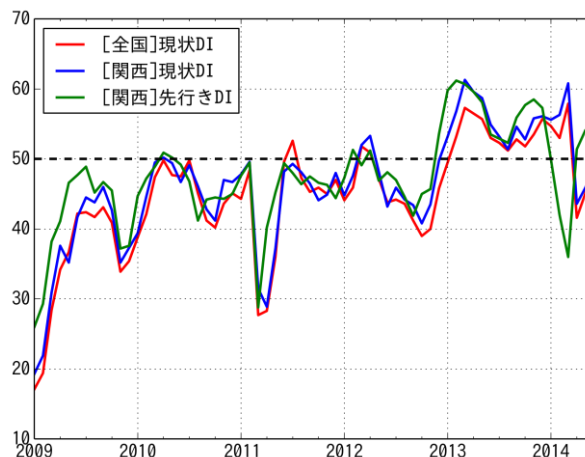
なお全国の6月の消費者態度指数(季節調整値)は41.1となり、同+1.8ポイントと2カ月連続で改善している。

(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西の6月の現状判断DIは前月比+2.0ポイントと2カ月連続で改善し47.9となった。夏のボーナス支給もあり、百貨店や自動車販売を中心に駆け込み需要の反動減の影響が小さくなっているようである。全国も同+2.6ポイントの47.7と2カ月連続の改善。

先行き判断DIは、関西では前月比+0.4ポイントの54.5と3カ月連続のプラス。全国では同-0.5ポイントの53.3と3カ月ぶりのマイナスとなった。

景気ウォッチャー調査(2014年6月まで)



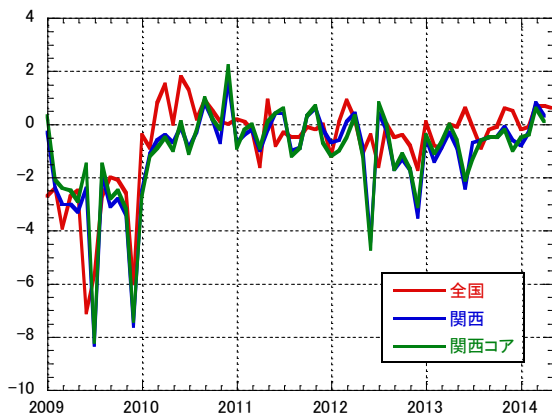
(出所) 内閣府(平成26年7月8日公表)

【所得・個人消費・住宅】

(1) 現金給与総額

4月の関西2府4県の現金給与総額(APIR推計)は27万3,804円で前年比+0.3%と、前月(同+0.8%)より減速したものの2カ月連続のプラス。府県別では、兵庫県で前年比-0.4%と減少したものの、それ以外の府県では、和歌山県で+2.3%、滋賀県で同+1.1%、京都府と奈良県で同+0.8%、大阪府で+0.2%と増加した。また京都・大阪・兵庫の加重平均をとった「関西コア」賃金指数(APIR推計)は4月が同+0.1%と2カ月連続のプラスとなった(前月:同+0.6%)。全国(確報値)では、5月は同+0.6%(速報値: +0.8%)と3カ月連続のプラスであった(3月、4月はいずれも同+0.7%)。

現金給与総額(前年同月比: %, 2014年5月まで)



(注) 関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(平成23年平均)で加重平均。

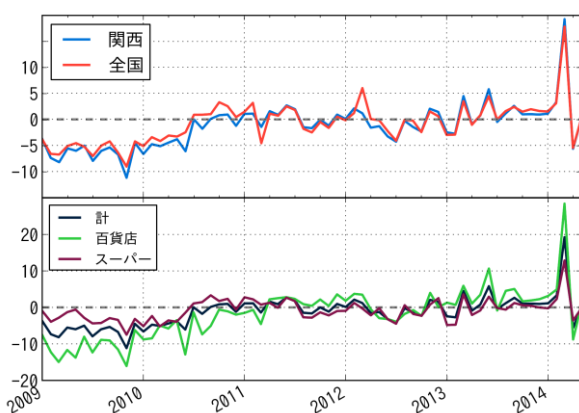
(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」(7月18日公表)

関西全体・コア指数のどちらも伸び率は3月以降プラスに転じている。景気回復の影響が表れたものと考えられるが、増加の速度は弱まっている。5月の全国の伸び率(確報値)は前月から幾分減速しており、今後の動向には注意を要する。

(2) 大型小売店販売額

関西の5月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+0.1%と2カ月ぶりの小幅プラス。百貨店も同+0.6%と2カ月ぶりのプラス。スーパーは同-0.2%と2カ月連続のマイナス。消費増税から2カ月が経過し、駆け込み需要の反動減の影響が和らぎつつある。

大型小売店販売額 (前年同月比: %, 2014年5月まで)



(注) 福井県を含む。

(出所) 経済産業省「商業動態統計」(平成26年6月27日公表)

全国では、5月の大型小売店販売額(全店ベース)は同-0.5%と2カ月連続のマイナスとなっている。

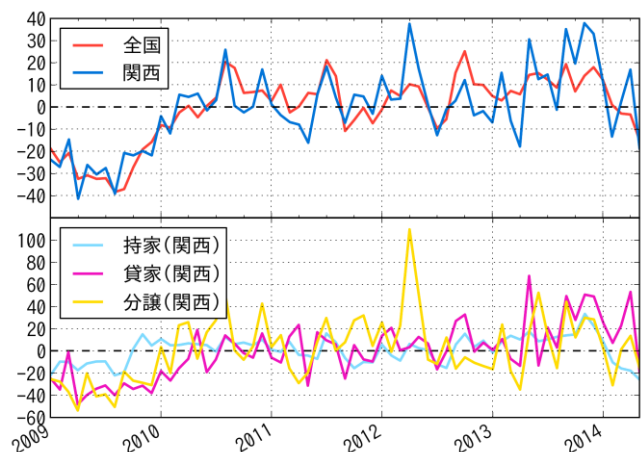
(3) 新設住宅着工の動向

関西の5月の新設住宅着工戸数は10,095戸。前年同月比-18.6%と3カ月ぶりの下落。駆け込み需要の反動減に加え、好調が続いていた貸家が下落に転じたことから、全体の大幅な下落につながった。全国でも同-15.0%と3カ月連続で下落しており、下落幅が拡大している。

関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は同-25.8%と4カ月連続のマイナス。貸家は同-19.0%と11カ月ぶりの前年比マイナス。分譲も同-15.3%と3カ月ぶりに下落した。

なお6月の関西マンション契約率は76.4%(季節調整値、APIR推計)となった。好不調の目安となる70%を33カ月連続(原数値は5カ月連続)で上回り、好調を維持している。

新設住宅着工(前年同月比: %, 2014年5月まで)



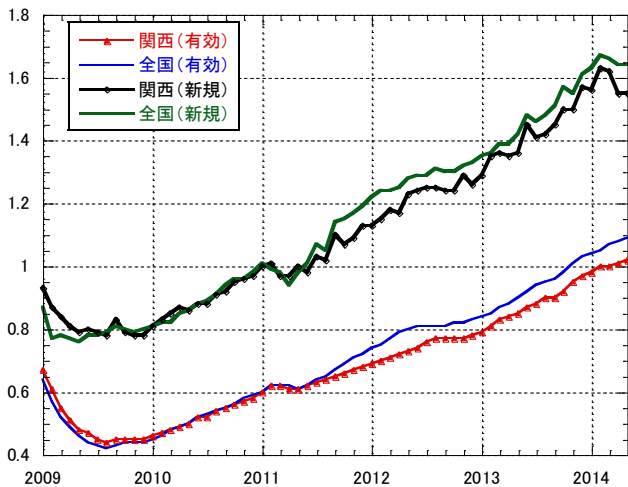
(出所) 国土交通省「住宅着工統計」(平成26年6月30日公表)

【雇用動向】

(1) 求人倍率の動向

5月の関西の有効求人倍率は1.02倍で前月から0.01ポイント上昇。機械や金属などの製造業で求人数が伸び、2カ月連続の上昇。全国は1.09倍で同0.01ポイント上昇。2012年12月から18カ月連続の上昇で、1992年6月(1.10倍)以来の高水準を記録した。消費増税後も労働市場は好調が続いている。

有効求人倍率の推移 (季節調整値、2014年5月まで)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況 (平成 26 年 6 月 27 日発表)

関西 2 府 4 県有効求人倍率(2014 年 5 月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
5月	1.09	1.02	1.04	1.01	1.10	0.88	0.90	1.06
4月	1.08	1.01	0.99	1.01	1.09	0.87	0.91	1.01

5月の関西の新規求人倍率は、1.55倍と前月比横ばい。なお求人数を産業別にみると、建設や製造業などで好調が続いている。また、全国は1.64倍と前月比横ばいであった。

関西の有効求人倍率を府県別にみると、滋賀県で1.04倍と2008年6月ぶりに1倍台を回復。和歌山県では2カ月連続して1を上回っており、雇用情勢は明るさが続く。

(2) 完全失業率の推移

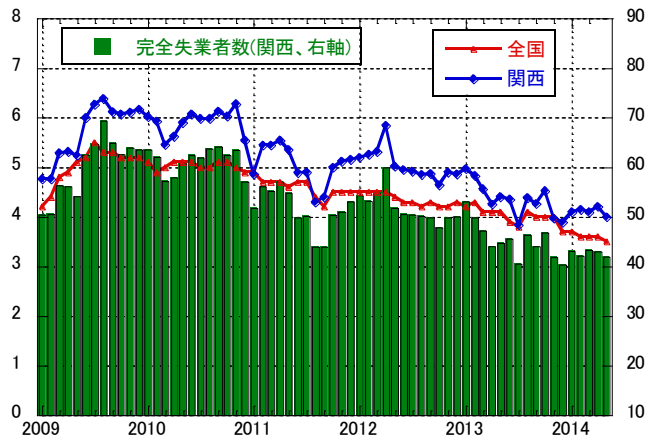
5月の関西の完全失業率(季節調整値:APIR推計)は前月比0.2ポイント低下し、4.0%となった。2カ月ぶりの改善である。全国の完全失業率(季節調整値)は3.5%となり、前月から0.1ポイント低下し、3カ月ぶりの改善。アジア通貨危機後の1997年12月に並ぶ低水準となった。

原数値ベースでも完全失業率は3.6%で前年比-0.6ポイント減少しており、それには就業率の上昇が影響していると考えられる。特に、就業率(原数値ベース)が73.0%と高くなり、中でも女性の就業率が63.7%と高くなったことが失業率を押し下げる要因となった。

関西の完全失業者数は41.7万人。前月から1.4万人減少した。関西の労働環境をみると、非労働力人口が5万人減少する一方で、就業者数が4万人増加し、完全失業者数は1万人

減少していることから、労働市場への参入が就業に結びつく好循環となっている。(数字はいずれも季節調整値:APIR推計)

完全失業率の推移 (季節調整値:%,万人、2014年5月まで)



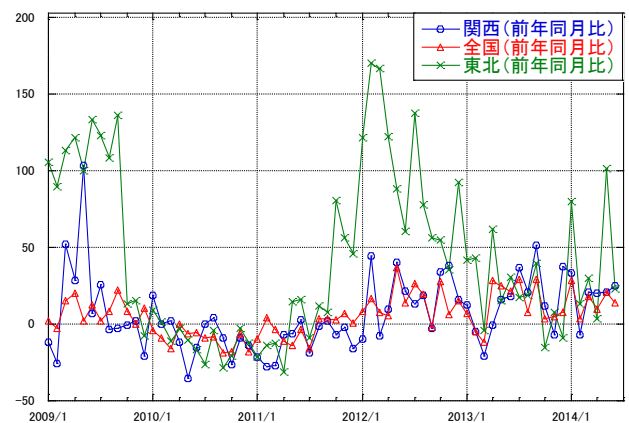
(出所) 総務省「労働力調査」(平成 26 年 6 月 27 日発表)

【公共投資】

(1) 公共工事請負金額

6月関西の公共工事請負金額は1,883億円。前年同月比+25.0%と4カ月連続のプラス。伸び率は4カ月連続で20%台が続いている。全国は1兆5,855億円と同+14.3%、15カ月連続のプラス。東北は2,728億円と同+23.0%と、6カ月連続のプラス。請負金額は関西、全国、東北共に伸び率は2桁を維持している。

公共工事請負金額(前年同月比:%、2014年6月まで)



(出所) 「公共工事前払金保証統計」、東日本建設業保証株式会社

ただし季節調整値(APIR 推計)で見ると、関西、全国とも3カ月ぶりの前月比マイナス(関西:同-6.6%、全国:同-15.3%)となった。前年比では高い伸びを見せているが、足下、一時の勢いが無くなってきている。

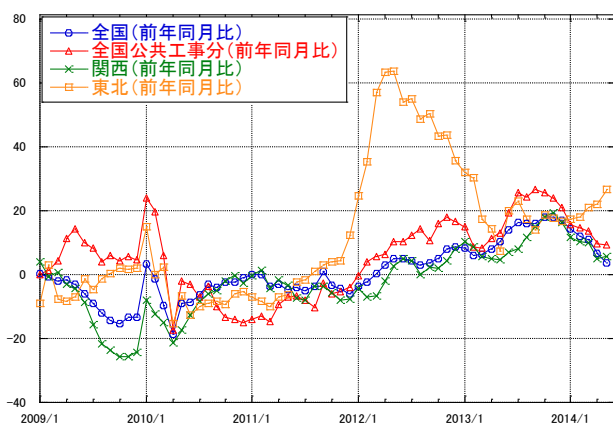
結果、関西の4-6月期(原数値)は前年同期比+22.2%と5期連続のプラスで、前期(同+15.3%)から加速している。全国は同+14.4%と5期連続のプラス。東北は同+28.5%と2期連続のプラスとなった。

(2) 建設工事

関西5月の建設工事は4,505億円。前年同月比+5.7%と25カ月連続のプラス。東北は4,390億円、同+26.7%と34カ月連続のプラス。伸びは依然20%台を維持している。全国は同+3.7%増加し3兆4,352億円となり、27カ月連続のプラスだが、7カ月連続で減速。全国の公共工事は1兆3,011億円、同+9.4%と28カ月連続のプラスだが、8カ月連続で伸びは減速。東北を除いて、建設工事の伸びはやや減速している。

先月以来、公共工事請負金額と出来高との間に乖離が見られる。この背景には、高水準の未消化工事残高がある。今後も、請負金額の増加が建設工事の増加に直ちに反映されるとは限らないため、建設工事の進捗動向に注意が必要である。

建設工事(前年同月比: %、2014年5月まで)



(出所) 国土交通省「建設総合統計」

【中国景気モニター】

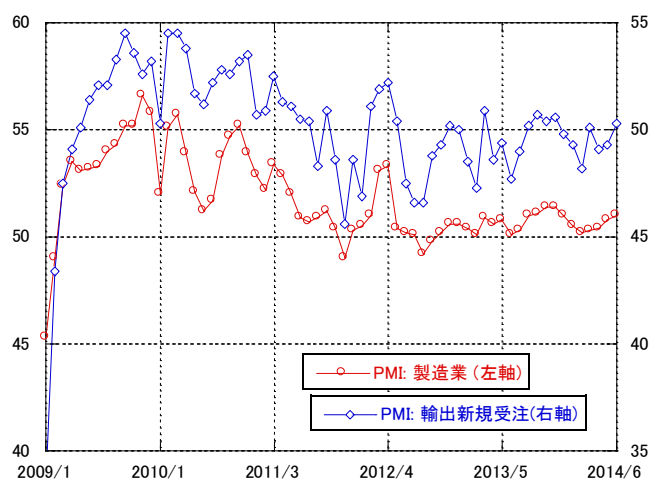
(1) センチメント

6月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は、前月から+0.2ポイント上昇し、51.0となった。4カ月連続の改善である。

うち、生産指数は53.0と同+0.2ポイント小幅に上昇し、2カ月連続の改善。新規受注指数は52.8となり、同+0.5ポイント上昇し、4カ月連続のプラス。一方、輸出新規受注は同+1.0ポイント大幅に上昇し(2カ月連続の改善)50.3となり、3カ月ぶりに50を上回った。また、雇用指数は48.6となり、同+0.4ポイントと上昇し、3カ月ぶりの改善である。2012年6月以来、25カ月連続で50を下回っている。

6月のPMI指数の改善は、リコニクスの「小型の景気刺激策」の影響と考えられる。

中国製造業購買担当者景況指数 (2014年6月まで: %)



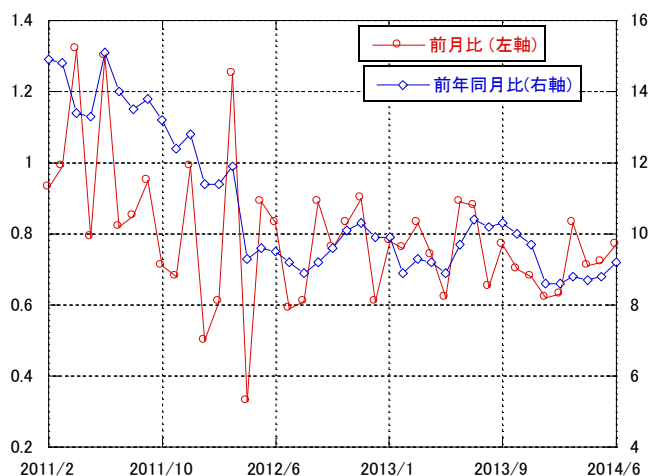
出所: 中国国家统计局; CEIC データベース

(2) 工業生産

6月の工業生産は、前月比+0.8%と2カ月連続の改善(5月同+0.7%)である。前年同月比は+9.2%と前月(+8.8%)より拡大した。

産業別に見ると、鉄道・輸送機器製造業(前年同月比+16.1%)、パソコン・通信製造業(同+14.3%)、医薬製品製造業(同+14.2%)、自動車製造業(同+13.6%)が高い伸びを示す一方で、繊維工業(同+6.4%)、鉄鋼などの製錬・圧延加工業(同+6.2%)、電力・熱力生産・供給業(同+3.4%)は比較的低調な伸びにとどまった。

工業生産指数(2014年6月まで：%)



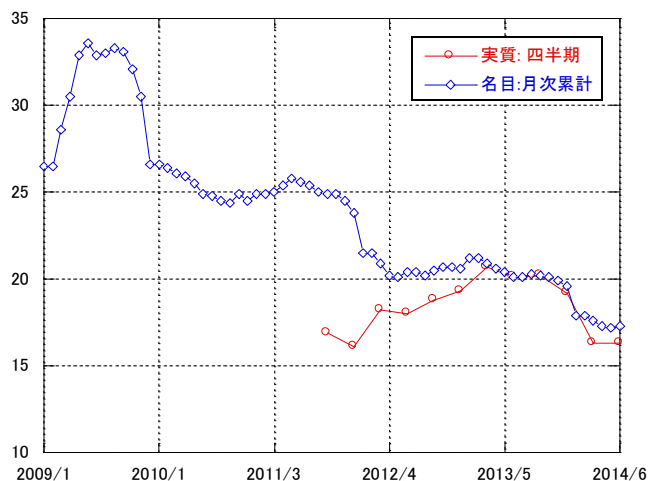
出所：中国国家统计局; CEIC データベース

(3) 固定資産投資

2014年1-6月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+17.3%となり、1-5月期(同+17.2%)から幾分増加した。昨年1-8月期(+20.3%)から減速していたが10期ぶりの改善。

産業別に見れば、第1次産業は同+24.1%(前月20.8%)、第2次産業は同+14.3%(前月14.0%)、第3次産業は同+19.5%(横ばい)となった。

固定資産投資 (2014年6月まで：%) (累積伸び率)

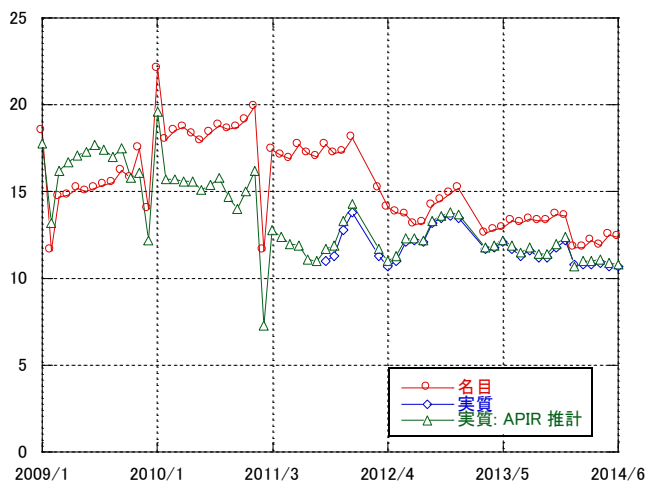


出所：中国国家统计局; CEIC データベース

(4) 消費

6月の社会消費品小売総額の名目成長率は前年同月比+12.4%となった。中国経済成長のエンジンと期待されているが、前月(同+12.5%)から幾分減速した。

社会消費品小売総額 (2014年6月まで：%)



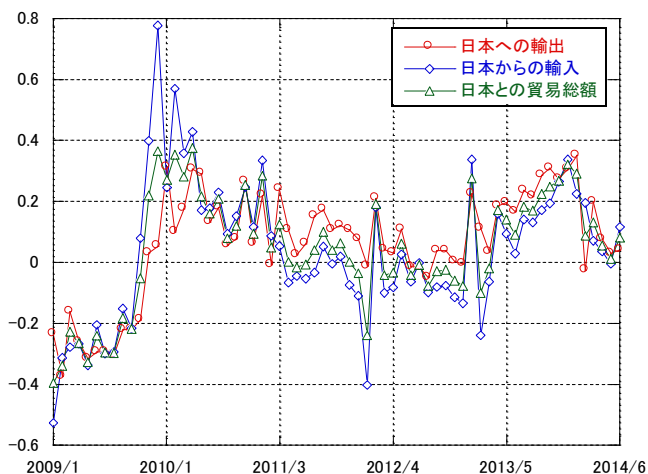
注: APIR 値は小売価格指数を用いて計算した値

出所：中国国家统计局; CEIC データベース

(5) 貿易動向

6月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比+7.2%増加し、3カ月連続のプラスとなった。輸入額は同+5.6%(速報値)となり、前月(-1.6%)からプラスに転じた。

日本との貿易 (前年同月比; 円ベース) (2014年6月まで：%)



出所：中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

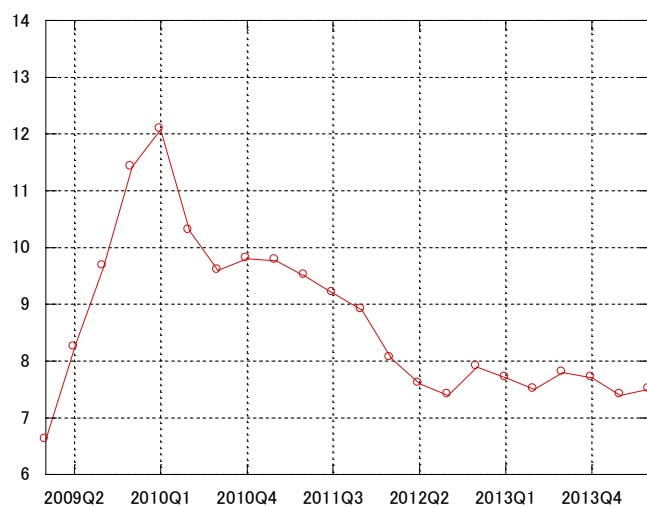
うち日本への輸出額は同-0.6%と4カ月ぶりの小幅マイナスとなった。日本からの輸入額は同+6.6%と4カ月ぶりのプラスとなった。円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+4.1%となり、4カ月連続のプラスとなった。日本からの輸入額は同+11.6%となり、前月(-0.4%)よりプラスに転じた。

(6) GDP

小幅の景気刺激策の影響により、2014年4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比+7.5%となり、前期の同+7.4%と比べて幾分加速した。市場コンセンサスを上回る結果であった。しかし8%を下回る成長率が9期続いている。なお2014年1-6月期の実質GDP成長率は前年同期比+7.4%である。

業種別にみると(1-6月期ベース)、第1次産業の成長率は同+3.9%、第2次産業は同+7.4%、第3次産業は同+8.0%となった。

中国のGDP成長率(前年同期比)(2014年4-6月期まで：%)



出所：中国国家统计局; CEIC データベース

Contact : 岡野光洋・林万平・木下祐輔
Tel. 06-6485-7695,
E-mail. contact@apir.or.jp

Release Calendar for APIR Monthly

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
30-Jun	1-Jul 中国製造業 PMI (6月) 毎月勤労統計 (5月:速報値)	2-Jul	3-Jul	4-Jul
7-Jul	8-Jul 景気ウォッチャー調査 (6月)	9-Jul	10-Jul 消費動向調査(6月) 近畿鉱工業生産指数 (5月速報) 中国輸出入 (6月:速報値)	11-Jul
14-Jul 全国鉱工業生産指数 (5月:確報値) 商業動態調査 (5月:確報値)	15-Jul マンション契約率 (6月) 公共工事前払保証額 統計(6月)	16-Jul 中国工業生産(6月) 中国固定資産投資 (6月) 中国消費小売総額 (6月) 4-6月期中国 GDP	17-Jul 建設総合統計(5月)	18-Jul 毎月勤労統計 (5月:確報値)
21-Jul	22-Jul	23-Jul	24-Jul 全国貿易統計 (6月:速報) 近畿貿易統計 (6月速報)	25-Jul 近畿鉱工業生産指数 (5月確報)
28-Jul 近畿貿易統計 (6月確速)	29-Jul 商業動態調査 (6月:速報値) 求人倍率(6月) 完全失業率(6月)	30-Jul 全国貿易統計 (6月:確速) 全国鉱工業生産指数 (6月:速報値)	31-Jul 新設住宅着工(6月) 毎月勤労統計 (6月:速報値)	1 Aug